

## サバニ帆漕レース 2014年版 ルールブック改定条項 一覧

### 第1章 基本原則

#### 4. 参加資格 (2) 乗組員の確保

交代要員を含めて1チームにつき、最低2名～最大6名の乗組員を確保しているチームであること。

### 第2章 艇体・偽装及び装備

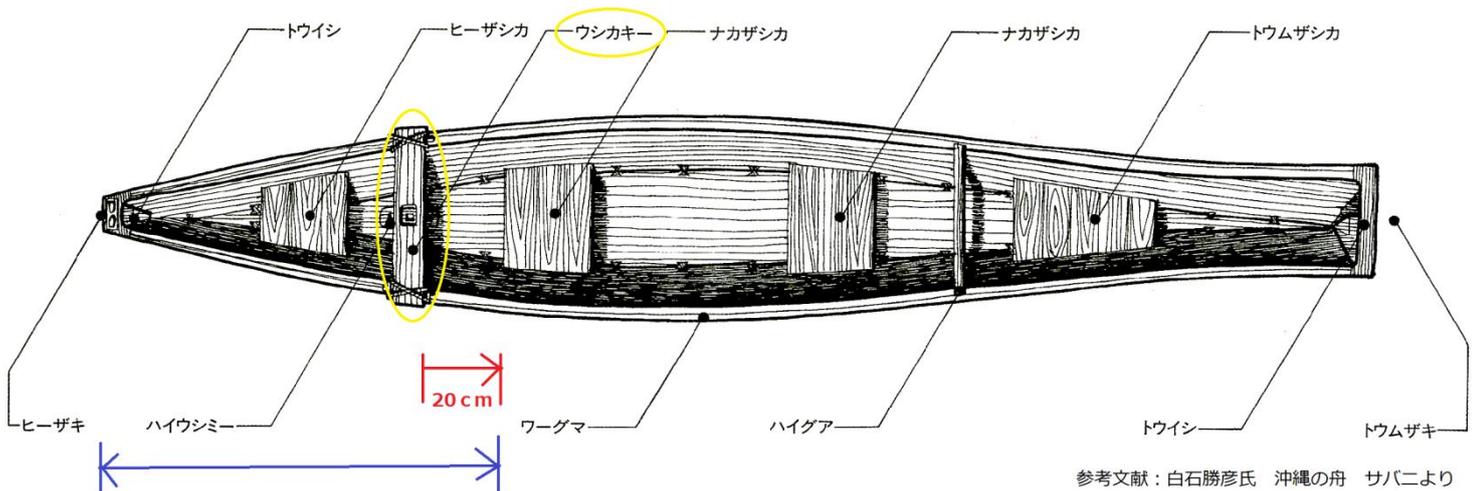
#### 5. 艇体 (2) 規模

艇の大きさは、全長4,5～9m以内、全幅1,5m以内であることとする。

#### (3) 構造

##### ② カーラの装置について

カーラは舳先の先端からハイウシミーの後ろ20センチまで。深さは20センチ以内。



#### 6. 艤装

##### (1) 帆柱 (マスト)

① 材質は木または竹の無垢であること。(単体であること)

② 帆柱 (マスト) は2本まで可能。ただし、2本目の弥帆 (ヤホ) は主帆の前に取り付けること。

1本の帆柱（マスト）に対して帆は1枚でなければならない。  
弥帆（ヤホ）の帆柱（マスト）の長さは主帆の7割以下であること。



### ③ 帆柱（マスト）の補助、補強の禁止

船体と帆柱（マスト）のトップや途中から繋ぐなど、マストの補助あるいは補強の目的で、ロープ等を使用してはならない。（サイドステイやバックステイの役目の禁止）

### ④ 帆柱（マスト）の形状

強化のためにグラスファイバーやそれに準ずるものを使用してはならない。  
（エポキシ樹脂の使用は禁止だが、ニスの使用は許容範囲とする）

#### （2）帆

① 材質は木綿またはダクロンでなければならない。（繊維であること）

③ サイズについて。最大のサイズの設定は2枚の合計サイズが縦5 m以内、横3,5 m以内とする。  
（最大の面積の50%を超えないこと。）

#### （3）帆棧（フーザン）

② 1枚の帆に対して帆棧の数は、主帆は5本以上、弥帆は4本以上装置されていること。

状況によって縮帆することはかまわない。又、予備の帆を持つことも自由である。

## 7. 装備

### (1) エーク

T型グリップはいずれのクラスにも使用は認められない。

### (2) 安全備品

『救命胴衣』は第4章で着用を義務付けられているので削除。

『雑索などで固縛』の文言も削除。

## 第5章 レース終了後の規定

### (3) 艇種別クラス分けと順位

本レースでは「第2章 艇体・艀装及び装備」に規定された範囲内において、艇の種類別に以下のクラス分けをし、それぞれの順位をとる。

クラス名の変更、

#### 古式サバニ→サバニクラス

艇体は木造、帆柱は無垢の木または竹、帆は規定の範囲内の材質で、かつアウトリガー、舵を装備していない伝統的なサバニ。

#### アウトリガー付きサバニ（伝統サバニ）→ニーサギクラス

艀装及び、装備がすべて第2章の規定範囲であるが、アウトリガーを付けているサバニ。かつ上記に該当しないクラス。

（ニーサギとはウチナー口で、古来より使われていた言葉、船体の傾きのバランスをとるための重しなどを付ける（荷を下げる）の意味があります。）

## 23. 表彰

本レースの表彰は、クラス別にそれぞれ上位3着までとする。サバニクラス1着のチームに沖縄県知事賞が授与され、ニーサギクラスにはピーターブレイク賞等が授与される。

その他、特別賞が設けられている。

例：宮崎県日南市長杯（飢肥杉カップ）、スポンサー賞など。